

背景・目的

旭川市内ではビニールハウスでの移植栽培が一般的ですが、省力化が期待できる直播栽培（水溶性シートテープ使用）について、当地での実施可能性を検討しました。

結果

令和3～4年度の試験により、シートテープ直播栽培の特徴が明らかになりました。

- ・マルチ張りや移植作業が不要で、省力化が可能です。
- ・移植栽培（地域慣行）に比べ、1作当たりのハウス使用期間が長くなります。
- ・不発芽による欠株が生じますが、栽植密度を高めて収量を補うことができます。
- ・栽植密度が高すぎると、生育の遅れ・ばらつきが生じ、品質や作業性が低下します。



	株間×条間	栽植密度	省力化	ハウス回転率	規格内収量	L規格の多さ	草姿	総合評価
移植栽培 (地域慣行)	15cm×15cm	4,444株/a	○	○	○	○	○	○
シートテープ 直播栽培	15cm×15cm	4,444株/a	◎	△	×	○	○	△
	20cm×10cm	5,000株/a	◎	△	×	○	○	△
	10cm×15cm	<u>6,667株/a</u>	◎	△	○	○	○	○
	10cm×13cm	7,692株/a	◎	△	○	△	△	△
	10cm×10cm	10,000株/a	◎	×	○	×	×	×



直播栽培による
収穫物（L規格）

◎：慣行より優れる，○：慣行と同等，△：慣行より劣る，×：慣行より著しく劣る

- ・適切な栽植密度で直播栽培を行えば、移植栽培（地域慣行）と同じ年間収量の実現も可能です。

	株間×条間	栽植密度	1作当たり収量	年間作付回数	年間収量
移植栽培 (地域慣行)	15cm×15cm	4,444株/a	0.20※	5	1.00
シートテープ 直播栽培	10cm×15cm	<u>6,667株/a</u>	0.26※	3～4※	0.78～1.04※

※ 移植栽培（地域慣行）におけるL規格株の年間収量を「1.00」、年間作付回数を「5回」とした場合の試算値

結果の活かし方

- ・シートテープ直播栽培は、省力化と収量確保の両立が可能な栽培方法です。
- ・移植作業などの人手の確保に困っている場合には、特にお勧めです。

